

■東井義雄 教育家。長年にわたって小学校で実践教育に挑戦し続け、全国から注目された。

とういよしお

明治天皇没・1912＝ 兵庫県出石郡合橋村(但東町)佐々木で、東光寺東井義證の長男に生まれる。

父が大谷廟務めだったため、3歳まで京都で育つ。

本格政党内閣1918＝ 6歳：小学1年生のとき、母と死別し、衝撃。

苦学し、

原敬首相暗殺1921＝ 9歳：

関東大震災・1923＝11歳：小学5年生で、中学(旧制中学)入試資格試験に合格するが、貧しさのため父の許しが出ず、諦める。

金融恐慌・・・1927＝15歳：一番安く学べる学校という理由で、師範学校(姫路)に入学。マラソン部に入るが、運動苦手のまま。

共産党事件・1928＝16歳：漢文の宿題で“独来独去無一随者”の言葉に出会って衝撃を受け、精神遍歴が始まる。

海軍軍縮条約1930＝18歳：

満州事変・・・1931＝19歳：

五一五事件・1932＝20歳：優秀な成績で卒業し、豊岡市豊岡尋常高等小学校に着任。以後、教職40年。

芥川直木賞始1935＝23歳：*理科学習での生徒の質問が契機となり、人間は生きているのではなく、生かされていることを発見。多くの論文を発表し、綴方教育界でその存在を認められるようになる。

日中戦争始・1937＝25歳：城崎郡日高町生まれの加藤富美代と結婚、

健保+総動員 1938＝26歳：敬愛する父と死別し、

第二次大戦始1939＝27歳：

日米開戦・・・1941＝29歳：愛児の大病に遭遇して、命のただごとならぬことに気づく。

・・・・・・1942＝30歳：故郷の合橋村立合橋国民学校に転勤、

年金+総武装 1944＝32歳：金橋村立唐川国民学校に転勤。「僕らの二千六百年史」をもあわせ、「学童の臣民感覚」を刊行。

敗戦・・・・・・1945＝33歳：*敗戦を迎え、再び、苦悩の日が始まる。

新憲法施行・1947＝35歳：相田小学校(小学校時代の母校)に転勤、

極東裁判決・1948＝36歳：戦争責任を感じて沈黙をまもるなか、学校通信(土生が丘)などで、地についた教育を実践し、

独立回復・・・1951＝39歳：

10年の沈黙を破って、

なべ底不況・1957＝45歳：*主著となる「村を育てる学力」を出版。

美智子妃・・・1959＝47歳：相田小学校校長となる。ベストロッチ賞を受賞。

安保闘争・・・1960＝48歳：つづいて、小砂丘忠義賞を受賞。

タイタイ病始・1961＝49歳：前任者の病気休職で、但東町立高橋中学校長に押し上げられる。

全国総合計画1962＝50歳：神戸新聞社より平和文化賞。

東京リビック 1964＝52歳：八鹿町立八鹿小学校長となって、再び、学童教育実践、全国から毎日のように学校参観者が訪れ、この間、教職員を個別に指導、

いざなぎ景気1966＝54歳：

美濃部都知事1967＝55歳：「通信簿の改造」を出版し、兵庫県知事より教育功労賞。学習研究社より学研教育賞。

ドルショック・・・1971＝59歳：文部省より教育功労賞。

沖縄返還・・・1972＝60歳：*定年退職で、40年間に渡る教員生活を終え、論文や実践記録を集大成した著作集を刊行、別巻としてつけた「培其根」は、教職員の個別指導の記録を自らが印刷で添付したもので、高い評価受け続ける。

石油ショック1973＝61歳：退職後、1年は八鹿町社会教育指導員となるが、その後、姫路学院女子短期大学講師。

クランポール事件1975＝63歳：

続いて、兵庫教育大学大学院非常勤講師を兼務しながら、全国隅々にまで講演行脚、

・・・・・・1981＝69歳：但東町より教育特別功労賞。

中曽根内閣・1982＝70歳：勲五等双光旭日賞。

・・・・・・1984＝72歳：

バブル始・・・1986＝74歳：身体の不調を訴えることが多くなり、

1987＝75歳：検査入院の結果、胃癌と診断され、入院。胃部の三分の二を切除。

リクルート事件・1988＝76歳：正力松太郎賞を受賞。

ドイ統一・・・1990＝78歳：NHKテレビ番組(心の時代)に出演して大反響となり、放送内容「仏の声を聞く」が出版されて、まもなく、

ソ連崩壊・・・1991＝79歳：豊岡病院で、没した。

インターネット「東井義雄記念館」、